

SORA

web magazine 2014.aug. vol.40

Travel

MAP
CLICK!

PHOTO & TEXT : YASUAKI KAGII

マーシャル諸島

MARSHALL ISLANDS

マーシャル諸島のマジュロに向かった。
最初に潜ったカロリンインサイド。
チェックダイブを兼ねて、お気軽にエントリーした。
しかし、目の前に広がるサンゴの群棲の前で、
思わず立ち止まってしまった。

太陽に向かって上や横に伸びようとするサンゴはいつも見ているけど、
光の届き難い下に向かって伸びるサンゴは見たことがない。

周囲に白い砂地が広がっているから、
そこで反射した太陽に光を利用しているの？
などと、何の根拠もない理由を見つけて撮影を続けた。
そして、サンゴだけで出来たトンネルを通り抜けると、
私はサンゴの国に迷い込んでいた。

tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2014
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.





マーシャル・マジュロのサンゴの国へ

マーシャル諸島
MARSHALL
ISLANDS
Travel



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく国



マーシャル諸島
MARSHALL
ISLANDS
Travel

2日目の2ダイブ目に潜った「ヘブンズヒル」はとても興味深いポイントだった。白い砂地が広がる浅瀬に、船の上からでも確認できる大きなリーフがある。エントリーして姿を確認すると、まるで私たちの侵入を拒むかのようにサンゴの壁が高く積まれている。いくつかのサンゴから形成された巨大な球体の周りを泳ぎ、ガイドのヒロさんに導かれて中に入っていくと、そこには、サンゴだけでできた宮殿があった。複雑ながらも精緻なサンゴの形状はアントニオカウディの建築物を彷彿させる。水深を変え、視点の高さを変えて眺めると、まるでサンゴの国に迷い込んだような錯覚を覚える。マーシャルの海に来た意味を教えてくれたポイントだった。また、このサンゴの巨大なリーフの周辺にもサンゴの根が点在し、クジャクスズメダイ、デバスズメダイが彩りを添えている。

マーシャル諸島
MARSHALL
ISLANDS
Travel

そして、その後に潜ったポイント「マジュロマジュロ」は、私がマーシャルの海を好きになるのに十分な魅力があった。「ヘブンズヒル」はどちらかというと、内海にある穏やかでいつでも潜れる全天候型。「マジュロマジュロ」は、外洋からチャネルに続くポイントで、透明度も高く、海中は少し深い青に包まれている。足元には、真綿のような美しいサンゴが伸びている。面白い造形のサンゴが絡まり、大きく迫り出し、大きな海中景色を創造している。撮影しながら眺めていると、その景色は草原や山脈などの「風景写真」というジャンルの被写体のようにも思えてくる。もし陸上でそのような写真を得意とするカメラマンの方々がこのサンゴの景

色に出会ったら、いったいどんな風に映り、撮影するのかな？と少し想像してみた。本当はまだまだ撮影するポイントやアングルがあるんだろうな？と後ろ髪を引かれながら潮の流れに乗っていくと大きなテーブルサンゴが群棲するエリアに到達した。潮の流れに少し逆らいながら、「この壮大な景色をどのように撮影すれば良いのだろうか？」とまた自問自答しながら、シャッターを切り続けた。

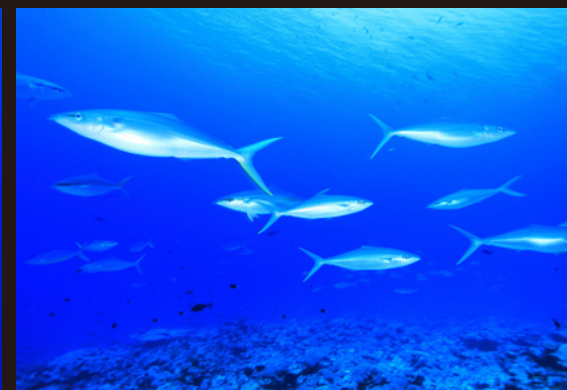




マーシャル諸島
MARSHALL
ISLANDS
Travel



マーシャル諸島
MARSHALL
ISLANDS
Travel



サンゴの国の住人たちに会いに行く！

マーシャルの中心地マジュロからダイビングに向かうとき、多くの場合は、ボートで40分ほどのカロリン島の周辺で潜ることが多い。たくさんのサンゴポイントが並ぶ中で、お魚ダイビングを楽しませてくれるのが、「アクアリウムアウトサイド」。潮の当たるチャネルのポイントで、ギンガメアジ、バラクーダ、インドオキアジ、クマザサハナムロ系の群れや、ホワイトチップシャークやマダラトビエイ、ナポレオンなども大物にも遭遇できる。サンゴのポイントを潜って行く中で、この「アクアリウムアウトサイド」はちょっとしたアクセントになる。時には、マンタ、シロワニ、タマカイなど見られるとのこと。実はこのポイントはシコンハタタテハゼなどのマクロの生き物も充実しているが、ここは大物狙いということで、上を見上げて楽しみましょう！



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



「あのサンゴの撮影を大切にしたいので、マクロの撮影はまとめて行いたいのですが」と言う、わがままな水中カメラマン？のクエストに応じて紹介されたのが、水深30m辺りではマルチカラーエンジェルフィッシュやアオマスクやシコンハタタテハゼなどが見られ、もう少し水深を下げると、ティンカーズ・バタフライフィッシュなどが見られ、あと、ちょっと行っでは行けない深度に行

くと、オルネートエンジェルフィッシュがいる。そして今回はスペシャルとして、グリフィスエンジェルフィッシュもお目見えした。また浅い水深で、気になるのがフレームエンジェルフィッシュ。このオレンジ色のビビッドなお魚はマーシャルの至るポイントにいるが、意外とシャイなので、見つけたり、また写真撮影できると満足度が高い。

マーシャル諸島
MARSHALL ISLANDS
Travel

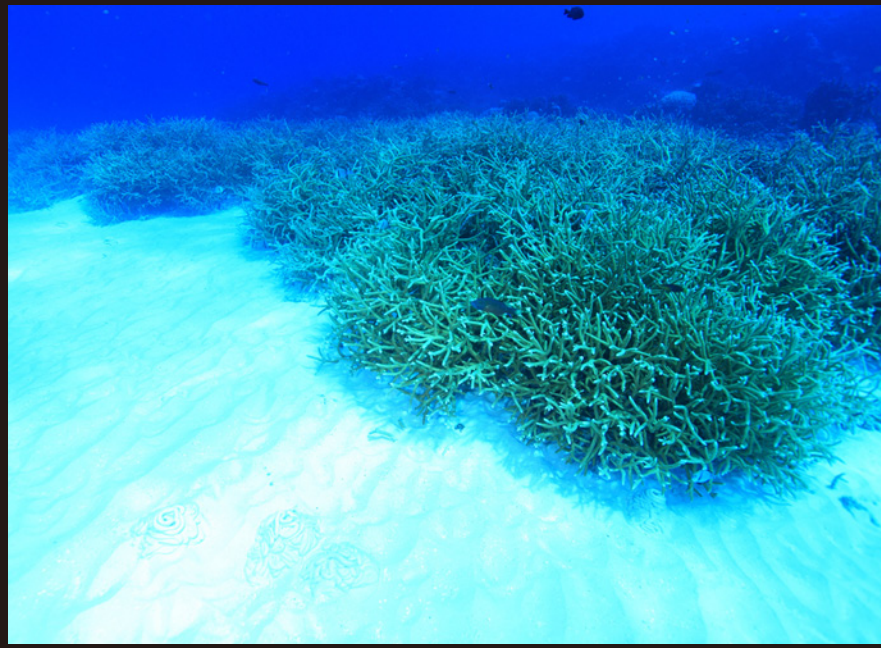




マーシャル諸島
MARSHALL ISLANDS
Travel

アルノ環礁には癒しがアルノ!

滞在中に天候や海況が安定しているようだったら、アルノ環礁への遠征をお薦めする。アルノ環礁は、主要な大きな環礁と北と東に位置する3つの環礁からなる。マジュロから約20キロの距離にあり、ダイビングボートで所要時間は約40～50分。アルノ環礁はラグーン内に白砂のビーチがある唯一の環礁で、もちろん人工物が少なく、手付かずの自然が残っている。ガイドのヒロさん曰く、「海中は、ハードコーラルの海ですが、どちらかと言うとマジュロに比べて、ソフトな印象があります」とのこと。主要なダイブサイトはほぼ島の西側にあり、年中、北東から吹く貿易風の影響で、いつも穏やかな風下で潜ることができる。代表的なポイントはまず、「アルノアルノ」。外洋に面しているのにラグーンのような白い砂地が広がるポイントで、海中はまさに空間美。アルノブルーと呼ばれる独特の美しい青を体感することができる。また、海中に飛び込んでくる太陽の光が、白い砂地にダイバーの影を描く。水深を下げると、マルチカラーエンジェルフィッシュやシコンハタタテハゼなどに会え、水深20mほどの根は、バートレットフェアリーバスレットが彩りを添えている。またブラックマンタ、マンタ、ジンベイザメなどの目撃例もある。そして、何よりもアルノブルーの中層に漂っているだけでも、心が弾み、かなりの癒しを与えてくれる。「アルノアルノ」は、そんな自分へのご褒美的なポイントだ。

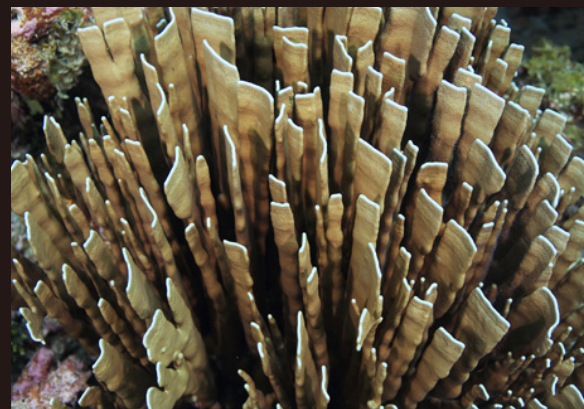


マーシャル諸島 MARSHALL ISLANDS Travel

「ドッグサウス」は迷路のようなサンゴの地形を楽しむポイント。砂地の上に広がるエダサンゴの群れやオレンジフィンアネモネフィッシュのコロニーがあり、また紫、黄色、青、ベージュなどのカラーバリエーションが豊富なイボハダハナヤサイサンゴがリーフを覆い尽くす。「ペン



テン」は、潮の流れがほとんどないポイントで、マクロの生き物観察、撮影に向いている。水深20m過ぎからシコンハタタテダイが居て、深度はマジュロに比べて浅い。他にも面白い生き物が続々と、メイキュウサザナミハギの幼魚、アケボノハゼ、タイニーダートフィッシュ、マルチカラーエンジェルフィッシュ、ヨコシマニセモチノウオなどなど。マクロオンリーでガイドすることもあると聞いたが、マジュロではあまり見られないヘラジカハナヤサイサンゴが多いのが見所である。そして、「イリアン」はアルノ環礁を代表する群れのポイント。ギンガメアジ、バラクー



ダ、オオメカマス、ホソカマスの群れ、ナポレオン、ホワイトチップシャーク、グレイリーフシャークなどなど。またジンベイザメやイルカ、マンタなども期待でき、アルノ環礁は癒しの空間だけでなく、群れものなどの大物ポイントも期待できる。



マーシャル諸島
MARSHALL
ISLANDS
Travel

マーシャル諸島のマジュロ

マーシャル諸島は全てが、サンゴで出来た国。今回のダイビングの拠点となったマジュロは首都にあたる。グアム経由でチューク、ポンペイ、コスラエ、クワジュリン、マジュロとアイランドホッピングするか、ハワイ経由でマジュロに行くことができる。今回、お世話になった現地ダイビングサービス raycrew 上田浩彰さん（マジュロ歴8年）、佐藤哲也さん（マジュロ歴3年）が活躍するマーシャルで唯一のダイビングセンター。マーシャルの海をこよなく愛する2人は、日本人ダイバーのみならず、世界中から来たダイバーに、この海の魅力を伝えている。「このような遠い海まで来てもらったのだから、ダイビングやアフターダイブも含めて、総合的に来てもらって良かった、と言ってもらえるようにしたい」、「海のコンディションはその時々でわからないけど、その日、その日の最高の状態で、ダイビングしてもらえるようにサポートしたい」と2人は話す。ダイビングボートは、32フィートで、余裕を持って使ってもらうために約10名までに限定。基本的に午前2ダイブ、ランチ、1ダイブのスケジュール。朝9時に集合して、3ダイブで3時半前後に帰港。ダイビングセンターが併設されたマーシャルアイランドリゾート内の港まで戻ってくるか、港が併設されたホテルを利用しているゲストは、そのホテルでドロップオフ。（アルノ環礁に行った場合も帰港時間はほぼ変わらず。）リクエストに応じて、早朝、ナイトダイブも可。ダイビングの後はダイビングセンターで、海を見ながらログ付けしたり、ビールを飲んだり…（笑）。



ホテル・ロバートレイマーズ

緑豊かな敷地内に様々なタイプのコテージが並びリゾート。シングルルーム、ツインルーム、コテージなど個人、カップル、グループによって選択ができる。部屋の趣きも様々で、特に個人利用のゲストにはこのリゾートは人気がある。併設されたレストランは欧米テイストで、アメリカンメニューが豊富に揃う。また港を併設しているので、ダイビングボートの送迎なども楽チンだ。プリペイドカードのWi-Fi可能。



ウリガイン

建物の2階にあるビジネスホテル（1階には美容室など）。新しい宿泊施設のため、清潔感のある室内。向かいにはマジェロ博物館。周囲には、中華レストラン、スーパーマーケットなどがあるので何かと便利。親切な対応のスタッフが出迎えてくれる。



モニカ

人気のある中華料理店。広々とした清潔感のある店内で、raycrewの一押しメニューが、「ホットフィッシュ」。日本では高級魚のハタの火鍋で、トウガラシ、山椒などの香辛料を使用したからいもの好きに堪らない一品。また、刺身も新鮮で人気がある。隣にはバーもあるので、連チャンで。



マーシャルアイランドリゾート

海沿いに面して建つリゾートで、全室オーシャンビュー。レストランは、ちょっぴりエレガント系で、週末には、屋外でバンド演奏がある。バーやジム、そしてダイビングサービスの raycrew を併設。スーパーマーケットなどにもアクセスが良い。館内はバリアフリーで、プリペイドカードのWi-Fi可能。



お土産屋さん：エレファ

マーシャルならではの土産は、編み物が人気。マーシャルの伝統的の手工芸品。パンダナス、ココナッツなどの葉を、水に浸してなめしたものを編み込む。とてもしっかりしていて、アクセサリ、小物入れ、コースターなどが人気。時間に余裕があれば、自分の好みやデザインを伝えて、オーダーすることも可能。また、ネックレスやランチョンマットに名前を入れたりすることもできる。



アリラン

飲茶などが人気のある中華料理店。この特徴は、なんと言っても料理が出てくるのが早い。味もちろん美味しく、リーズナブルでメニューも豊富。アメリカンビール以外にも、青島の瓶ビールがある。またカラオケもあり日本語の歌もある。

